

報 告 書

開催日時	平成 24 年 5 月 11 日（金） 7 時 ～ 8 時 30 分	
開催場所	小友町 小友コミセン	
出席議員	挨拶 菅野稔 班長	
	司会進行	大坪涼子
	報告者	佐藤信一
	記録者	鵜浦昌也
	参加議員	千田勝治、大坂 俊
参加人数	8 名	市職員 2 名 伊藤議長 東海新報社
主な要望 ・ 提言等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害公営住宅について、市内にはどれほど建設されるのか。以前は 1 町 1 棟ということだったが、そのとおりか。どれほどの規模で、何階建てか。整備するに当たっては、有事の際の避難を考えて屋外スロープ(階段)を設置するなどの構造にして欲しい。安心して暮らせる施設にして欲しい。</li> <li>2. 防災集団移転の工事着工見通しは。移転者はいつごろ工事代金を支払うのか。</li> <li>3. 両替地区は 14 人(このうち 1 人は高齢者で入らない予定)がまとまって高台移転の申請書を提出し、地主の了解を得ているが、これから何をしたいのかわからない。</li> <li>4. 移転するにしても、以前住んでいた近くの地域に住みたい。</li> <li>5. 震災前は広い土地で暮らしてきた。高台移転するにしても、せめて 200 坪ぐらいの広さが欲しい。長屋も必要で、広さの上限を高くして欲しい。</li> <li>6. 移転場所に設置される作業所など、共同ではなく個人で持てるようにして欲しい。</li> <li>7. 震災前は立派な土地があったのに、「これからは狭いところに住め」ということか。</li> <li>8. 「土地は買え」「家を建てろ」では困る。二重ローンになるし、せめて「土地はくれないか」と思う。「同情するなら金(土地)をくれ」と思う。</li> <li>9. 高台移転の造成地を市から購入することになると思うが、いつごろから支払うことになるのか。</li> <li>10. 土地の評価額について、国が調査するのはいつごろか。測量、造成などのめどはいつか。今後、消費税が増税されると今年より来年と、月日が経つと価格が上がってしまう。それに対する補助が出るのか不安。</li> <li>11. 市は移転者候補地の地主にあたっているのか。</li> <li>12. 被災者は、まず住むところが決まらないと落ち着かない。是非集中して進めて欲しい。移転先に集会所は設けられるのか。</li> </ol>	

	<p>13. 集団移転は 10 件ぐらいが一番よさそうだ。20 とか 30 件になる土地が広く必要になり、造成も多額になる。</p> <p>14. 集会所は 10 件ほどの移転先にも設置されるのか。</p> <p>15. JR 大船渡線について、ぜひ盛まで開通をお願いしたい。最悪で矢作まで早めの整備を。</p> <p>16. JR 大船渡線を復旧させる際は、老朽化したトンネルなどの改修も考慮しながら進めるべき。</p>
<p>所 感</p>	<p><b>菅野 稔</b> 出席者が少なく、高台移転関係の質疑・提言なされ協議会の立ち上げ等工夫が必要と感じた。</p> <p><b>大坂 俊</b> 各地区でスピード感の無さが指摘されているが、小友地区においては高台移転協議会の情報量が不足と思われる意見が多くあった。 行政当局、議会の一層の情報発信が必要と感じられた。</p> <p><b>佐藤信一</b> 被災地区での報告会ということで、高台集団移転や、災害公営住宅についての意見が多く出された。被災した土地の評価額と移転する土地の価格はどうするのか、今後の事業の進捗状況等についての質問もあり、スピード感のある事業展開の必要を感じた。</p> <p><b>大坪涼子</b> 出席者 8 名とやや少なかった。 防災集団移転で 1 世帯宅地 100 坪に限定するのはどうか、漁業者は作業小屋がなければ仕事にならないなど、ほとんど住まいの話でした。</p> <p><b>鵜浦昌也</b> 出席者は被災者が多く、防災集団移転事業がなかなか進展しないことにいらだちを感じているようで、早めに事業を進めていくことが重要と思った。</p> <p><b>千田勝治</b> 集団移転先の地主との内諾は各協議会とも目途は経っているようであるが、被災者への国の助成の増加を希望する意見が多く感じられた。</p>

陸前高田市議会議長 殿

平成 24 年 5 月 31 日

陸前高田市議会議会報告会開催要綱第 10 条第 1 項の規定により提出します。

平成 24 年度議会報告会 2 班  
班 長 菅 野 稔 (印)